

2019年
2月10日

No.243

さざなみ

〒520-2141
大津市大江6丁目23-24
さざなみネット
 (金融労連・全国金融産業労働組合滋賀分会)
 TEL・FAX 077-545-5154

滋賀銀行従業員組合・年金者部会・さざなみネット合同旗びらき

異常な金融行政を変え 働きがい生きがいをもって働ける労働環境に

さざなみネットは、滋賀銀行従業員組合および同・年金者部会と合同で、1月17日書記局において、「2019年合同旗びらき」を開きました。それぞれの役員13人が、内さざなみネットから3人が参加しました。

はじめに、中島滋賀従組委員長があいさつ(次記)をされました。

マイナス金利等の金融行政を変え、働きがい、生きがいをもって働ける労働環境に

今年を変えなければならないことが多い。まずマイナス金利等の異常な金融行政である。マイナス金利で地域金融機関がどうして稼ぎ、地域に貢献し役割を果たしていくのか。金融労連全体で、業界を変える気持ちで、積極的に提言しながらがんばっていききたい。滋賀銀行の中では異常な金融行政による矛盾が渦巻いている。働きがい、生きがいをもって働ける労働環境ができているのか。変えていけるのは我々しかない。現役もがんばりますので、先輩方のご協力をよろしくお願いします。

次に和田年金者部会部長があいさつ(次記)をされました。



七福神 岩波 美智子さん 画



**今年世の中を変える
大きなチャンスである。**

今年世の中を変える大きなチャンスである。選挙の年である。本気で共闘できたら世の中変わるんだ。「このままではあかん」「このままでは日本がどうなるかわからん」という声をよく聞く。そういう方向へ変わりつつある。今年思い切ってがんばっていききたい。

倉見年金者部会世話人の音頭で乾杯の後、参加者は新しい年への決意など、食事をしながら交流し、和やかに懇談しました。

最後に山崎さざなみネット書記長が、前進座初春公演「裏長屋騒動記」での、正直に生きる庶民のように心から笑える生活を取り戻せるよう、3つの組織がお互いに協力し、今年も健康に気を付けて、がんばろう、と閉会のあいさつをしました。



倉見さんの音頭で元気に乾杯

消費税講演会

日本社会を悪化させている消費税

1月26日、長浜市民交流センターにて消費税講演会が開催され、雪が降る悪天候でしたが70名が参加しました。さざなみネットから清水さんが参加されました。

講師には大阪から清家裕税理士を迎え、「日本社会を悪化させている消費税」の題で消費税大増税の本当のねらいについて、豊富な資料も示しながら、次のように話されました。

日本の国と地方の1年間の税収は100兆円。うち消費税は22兆円で22%を占めている。政府は日本の消費税をヨーロッパや北欧並みに上げるべきというが、負担率は今でもスウェーデンの税率22%と変わらない。また、年収200万円で消費税負担の占める割合は8.9%、2000万円では1.5%と、低所得者ほど負担が重い逆進性の税金である。大企業には莫大な輸出戻し税（実質リベート）や優遇税制がある一方、中小業者は転嫁できなくて過酷な納税で、営業破壊税である。

始まりは紀元前ローマ帝国の時代に戦費調達のために導入。第2次大戦前にドイツ、フランスで。日本も戦前導入を図ったが廃案に。戦後復興でも猛反対で廃止に。しかし1989年3%に強行。社会保障には回らず、大企業と軍備増強に回っている。

消費税の納税義務者は事業者である。政府は

インボイス導入で500万の免税業者を課税事業者にし、2000億円の税収(1事業者20万円)を見込んでいる。インボイスで徴税システムを定着させた上で、財界の要請どおり税率15%、25%を狙っているのだ。

タックスヘイブンや株式配当への課税強化、累進課税率を元に戻すなど、憲法に則った応能負担の原則で不公平な税制を改め、無駄な公共事業や軍事費を削れば、38兆円の社会保障財源を生み出せる。

質疑応答では、カード社会化への危惧、小規模農業者にも降りかかるインボイスへの不安などが出されました。清家氏は、解決策は「私たちの運動で増税を中止させるしかない」ときっぱり答えられました。

一点共闘で世論と運動を盛り上げ、春の統一地方選挙、夏の参議院選挙で増税に反対する議員を大きく増やし、アベ政治とともに増税勢力を一掃しましょう。



資料を掲げ講演する清家税理士

実弾演習するな！ オスプレイくるな！ 辺野古新基地反対！

日米合同演習反対 あいば野大集会

2月3日高島市民会館で、陸上自衛隊の饗庭野演習場と今津駐屯地、明野駐屯地（三重県伊勢市）での日米合同演習（4～15日）に反対する2・3あいば野大集会が開かれ、350人超が参加しました。さざなみネットから浦谷分会長が参加されました。

集会では、主催者の代表が「県民の声を無視して演習を強行することは許せない」とあいさつ。日本共産党基地対策委員会責任者の小泉親



「戦争法廃止！自衛隊を海外へ送るな」のチラシを掲げ、抗議

司氏が基調報告し、「米軍の好き勝手な行動は、政府のアメリカ言いなりの姿勢であ

り、屈辱的で不平等な日米地位協定によるものである。オスプレイが本土での飛行訓練をする理由について、沖縄には高い山がなく訓練に適さないためであり、これからは本土での訓練がさらに拡大される」と説明されました。

「あいば野平和運動連絡会」の事務局長が、迫撃砲着弾事件（18年）や重機関銃貫通事件（15年）が起こった饗庭野での実弾訓練の中止を訴え。「オスプレイ来るな！三重県民の会」の代表は、前日に明野駐屯地にオスプレイ3機が飛来した時の様子を報告しました。

感想

去年11月14日に、あいばの演習場で自衛隊が発射した迫撃砲弾が直撃し、自家用車ガラスが粉々になる被害がありました。それなのに1月11日から迫撃訓練を再開し、2月4日からオスプレイを使用した日米合同演習行われようとしています。多くの抗議を無視した訓練に黙ってられず集会に参加しました。ちょうど同じ時刻に住吉公園でも集会やっており、同じ目的のようなので一緒にやれたらと思いました。雨が降ってききましたが元気にデモ行進しました。（浦谷）